

English Through Pictures と The Basic Words

室 勝

表題の2書のうち前者はI. A. Richards さんとC. Gibsonさんのもので、後者はC. K. OgdenによるBasic Englishに関する基本図書の1つであることは言うまでもありません。G. D. M. を教える技術を持っていないわたしが、こういう題で書き出したのについては、理由があります。G. D. M. によって英語を教えておられる方たちの中から、時どき、教えていながら、何となく形式に流れて心もとないなどという声が聞えてきたり、E. P. の2巻が終わってから、第3巻に入っていくときや、full Englishに移行しようとするとき、その間に空隙があるような気がして、どうしてよいか困るなど言っているのを耳にしたりするたびに、わたしなりに、どうしたらよいかと考えたわけです。

以上のようなことが心にひっかかっていたものですから、今年の3月に六甲山上でのセミナーで話をしたとき、みなさんがE. P. を使って教えるとき、what のほうは、きちんときまっているわけで、howについても一応は心得ていられるでしょうが、whyについてあまり考えたことがないのではないか、つまり材料と教える順序はきちんときまっている、またどう教室で教えるかについても、吉沢先生をはじめ、長く経験をつまらた方がた

の指導によって、あまり困ることはないようになっていても、何故にこの材料を、この順序で、この方法で教えるのかについて、その理由を、自分で深く考えたことがないのではないか、ここが、あるいは盲点なのではないかなど、教室での経験のないわたしが、なまいきなことを言いました。

以上のような問題について、わたしの一応の解答は、E. P. とThe Basic Wordsの内容を少し詳しく比べてみてはどうかということです。この問題はわたしにとっても、時間のかかることで、何かにつつかる度ごとに、1つ1つ考えてみようかと思っています。この間、朝日カルチャーセンターでBasicで書く授業をしていたとき、cut という語にぶつかり、これがE. P. では、どのように教えることになっているのか気になり、しらべてみると2巻の35ページにあって、切るという動作と、切られた後の状態とを示す画が出ていました。もちろん両方とも名詞として提示されていて、すっかり切り離されている状態をcutの用法の理解の出発点としているわけです。これはたいへん賢明な方法だと思えますが、この語がたとえば3巻目に出て来たとなれば、この用法だけではすまないかもしれないので、一工夫しなければということになるのではないのでしょうか。さてThe Basic Wordsをみると、ちょっとおどろいたことに、まず形容詞としての例が示されていて、

名詞用法はその後です。The cord is cut.

(その紐は切れている); a cut finger (切り傷をうけた指); a well-cut dress (仕立てのよい服); cutting a bit off (一部を切り取って). A cut on the nose (鼻にうけた切り傷). A newspaper cutting (新聞からの切り抜き). 以上6つの用法が示されていて、最後の2つだけが名詞的用法です。

ここで少し脇道にそれるようですが、触れたいことがあります。それはOgdenさんとRichardsさんとの関係です。結論的に言ってしまうと、時どき1部の人が言うような深刻な仲たがいはなかったのです。これについては、かみかみ証拠があって、Richardsさんは死ぬまで、Ogdenさんを、従ってそのBasic Englishを、強く支持していて、Ogdenさんが死去されたときRichardsさんが書いた長い追悼の文や、その後Richardsさんが出した何冊かの本の中にも必ず相当のページをさいてBasic Englishを強く支持する論文が入っているのを見ればわかります。ただしOgdenさんはBasic Englishを一般的教養のある人のための世界共通語にすることが出来たらと、それと共にfull Englishへのfirst stepsともしたいと思っていたのですが、RichardsさんがE. P.で果たそうとしたことは、Basic Englishの範囲内ではあるとはいえるものの、Basic Englishの目的とはかなり異なっています。英語の核心である小英語がBasic Englishであるとすれば、そのまた基本的部分を、語学的訓練のあまりない人たちにも、画の助けによって自然に分るように配慮して作られたものです。そのE. P.を教師によって教室で教えられれば、いっそう効果があるというわけです。Richardsさんも、Ogdenさんも一種のプラグマティストですから、自分の目的にはどういうものが最も適しているかを、第1に考えたという点は、2人に共通しています。

ここで、話をもういちど前にもどします。Basic Englishからfull Englishへ進むときにもOgdenさんが言うようにすらすらとは行きません。これは必ずしもOgdenさんが悪いわけではなく、Basic Englishからfull

Englishへの橋渡しのためにさまざまな具体的方法の提示を約束し、その1部は公表されていますが、そのための多くの方法が未発表のまま、Ogdenさんは死去しました。このBasic Englishとfull Englishとの間隙を埋めるのは、わたしたちに残された大事な仕事だと思っています。

E. P. およびG. D. M. の立場で考えてみると、たとえば今のcutをただ「切断」という名詞だけではfull Englishのcutの用法とは、ほど遠いことになります。少なくとも、The Basic Wordsに出ている6つの用法は、どこかで押さえておかねばならないでしょう。これをいつ、どうやってG. D. M. の方法を乱さずに嵌め込んで行くかは、わたしには分ません。G. D. M. をやられている皆さんの仕事ではないかと考えています。このcutの例のように、これはと思う語は、ときどきThe Basic Wordsでの扱い方とくらべて見ることをおすすめします。そうするといろいろと考える材料が出てくる筈です。なぜある語がE. P.に入っているのか、または入っていないのか、なぜ特定の用法が示されているのか、また、なぜこの順序で語が出てくるのか、などのことを、The Basic Wordsの中での扱いかたとくらべて考えることで、RichardsさんがE. P. でやろうとした意図もいっそうはっきりわかってくるのではないのでしょうか。これはそう簡単な仕事ではないかもしれませんが、最初に言ったwhyに対する答えを自分なりに見出すことで、教室での自分の作業に自信を持つことができるのではないかと思います。これは、わたしがこの数ヶ月考えてきたことで、これからもずっとわたしの興味をつなぐ事だと思っています。cutは、たまたまわたしがぶつかった例ですが、Richardsさんが、かつて言ったようにThe Basic Wordsはmetaphorの宝庫だと思うので、E. P.に出ている語のmetaphorical useをどのようにして導入すればよいかも、取りくみがいのある仕事です。たとえば、attractionも物理的「引力」から、人や物の「魅力」を示す用法をどのようにいつ無理なく導入できるか、 (10頁へつづく)

仮定法の指導過程（導入）

小 高 一 夫

Teacher: 黒板に1m程度の直線を書き、生徒の自発的な発言を受けながら、

This is a line. It is straight.

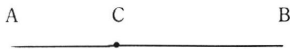
巻尺を出して、

How long is it?

測りたがる生徒に巻尺を手渡す

Student: It is _____ cm long.

T: You will make it one metre. と言って1米の直線にさせる。その直線の両端をそれぞれA、Bとし、直線A B上の真中よりや、左寄りの一点にマグネットを置き、その点をCとする。



T: AC is a part of Line AB. BC is the other part. How long is it?

生徒は大体の見当をつけて ~cmと言うので、しばらく時間を与えてから、

T: If AC is 35cm long, BC is 65cm long.

教師はA Cの数字だけを言い、生徒がそれを文の中に入れたうえでB Cの長さを言う。

T: A Cを指しながら、40 (forty).

Ss: If AC is 40cm long, BC is 60cm long.

BC is 20cm longer than AC.

AC is 20cm shorter than BC.

などの文を生徒から引き出す。

教師はマグネットの位置を移動させながら、50と60、60と40などの数字を言うことによって生徒達に正しい発言を促す。

Ss: If AC is 50cm long, BC is 50cm long. BC is as long as AC.

次に、教師は何も入っていない（と、生徒にはわからない）箱を静かに机の上に置いて、

T: If you say the name of the thing

which is in the box, I will give it to you.

と、仮定法現在の導入をする。willのところが前文までは現在形であったが、こゝでは未来を表わすwillを用いることがこの文を言っている状況から無理なく理解される。

教師は生徒に箱の中の品物の名前を言うように仕向ける。そして、数名を指して言わせる。

教師は品物の名前を言った生徒に向かって、それぞれに次のように言う。

T: If there is _____ in the box, I will give it to you.

S: If there is _____ in the box, you will give it to me.

箱を開ける。.....何も入っていない。

T: There is nothing in the box!

そして直ちに、今話した生徒のめいめいに對して次のように言って仮定法過去の導入をする。

If there were _____ in the box, I would give it to you.

S: If there were _____ in the box, you would give it to me.

Ss: If there were _____ in the box, you would give it to him (her).

こゝでは、条件節中におけるBe動詞は主語の数と無関係にwereを用いるという特殊性（仮定法過去）に気付かせるために、やゝ意識的に練習させる。

T: 透明な箱を手を持って、

I see you through the box.

Ss: You see us through the box.

T: その箱を机の上に置く。

Is there anything in the box?

Ss: No. There is nothing in the box.

T: 一歩出て箱の前に立ち、教師も生徒も箱が見えない状態で、肩越しに後方の箱を指し

ながら、

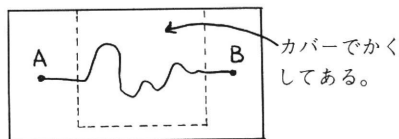
If there were something in the box,
we would see it.

次に教師は、手の平を開いて生徒に見せながら、If ... と誘いかける。

Ss: If there were something in your
hand, we would see it.

以上で Live situation による導入と練習が
終わり、次は絵を使って練習する。

(1) 次のような絵を見せる。



T: If this line is straight, it will be
the shortest distance between A and B.

But ... と言ってカバーを取り、(it is
not straight. It is bent.) 曲線である
ことを見せる。

Ss & T: If this line were straight,
it would be the shortest distance
between A and B.

(2) 正三角形と見まちがえるような三角形
の絵を見せる。angle(s) と side(s) につい
て説明(復習)する。

This is a triangle, This is an angle
in the triangle, These are the angles
in the triangle. This and this and
this are the sides of the triangle.

These are the sides of the triangle.

T: 誘いながら、

If the angles in this triangle are
equal, the sides will be equal.

生徒の一人に分度器で測らせる。正三角形
でないことがわかる。次に正三角形の絵を見
せて同様の英文を言わせる。

(3) 一見して三つの角度が異なる三角形の
絵を見せる。

If the angles in this triangle were
equal, the sides would be equal.

升川さんから生命を得て

東山 永

升川さんのGDM活動に注いだ情熱と力、
またその意味が、彼を失った今実感としてわ
かったということは、おそすぎたのか、それ
とも失ってはじめてものごとの本当のすがた
や意味がわかるのが普通のことか。

升川さんの追悼会(東京で)の時「升川さ
んはもういないのです。升川さんの死によっ
て私たちは生れてくるのです」と室先生がお
っしゃいました。私は心の底からいま生れて
きて成長すると思いました。

It means YOU. GDM会員への最後の呼
びかけとなりました。このことばを聞いた時
多くの会員は、自分の足で立とうと思ったこ
とでしょう。そして彼の死によって自分の足
で立てるようになってきたのです。私もその
ひとりです。Bulletin No.34で、「生き続ける
吉沢先生のことば」と題して書きましたが、
先生の亡くなった後数々のことばが益々力
をもって生きてきたというか、ひとりひとりの
中に生命をもつようになったと言ったほうが
ふさわしかったのではないかと思います。

升川さんの死を耳にした時、六甲でのセミ
ナーは予定どおりしなければ、そして今度こ
そ意味論をまとめて自分のものとして話さな
ければという使命感のようなものを覚えました。
室先生の意味論における三本の柱、片桐
さんの意味論入門を参考に、意味に関する本
を読み返し、特に升川さんのものを丹念に追
いました。1963年頃からの升川さんの研究発
表、demonstration, lecture のかずかず、
私の手許のノートによるだけでも40件を越え
ている。これはGDM内に於けるものだけであ
る。

ETPは意味論の宝庫であると常々言い、
そしてその意味論に基く彼の実践は、今迄に、
また今後も誰にもできないことでしょう。し
かしIt means YOU! が私たちの心の奥深
く刻まれました。升川さんの生き方はその死
によって私達に生命を与えてくれたのです。

天国行き特急列車

片桐ユズル

じつは升川さんといっしょに、言語意識をかめるために学校でどんなにしたらよいかという本をつくることになっていた。それまでにぼくがいろいろ書いていた文章をあつめ、それに升川さんが意味論的なゲームをたしたりして、現場の先生方によるこんでもらえるようなものがつくるといい、と出版社がかんがえていた。そのうちあわせをしなくてはならないのだが、ことがあまりトントンとはかどると、ほかのしごとにもかかえているので自分自身がしんどくなるのをおそれて、あまり積極的にせまらなかった。「よし やろう」とすぐにならなかったのは、升川さんにしては異例のことだったが、だいぶお疲れのようだなとおもい、そのままにしておいた。

1月21日の夜、それまでながいこと重荷になっていた大学での共同研究のまとめを書きおえた升川さんはなんとなく夢の中で柵にもたれて、あちらの方でにぎやかにまわっているメリーゴーラウンドを見ていた。メリーゴーラウンドがとまる吉沢美穂さんが手をふって「ほら、ここ、あいてるわよー」といっているのではないか! 「あいよーっ」といって升川さんはおもわず走りだしてしまった。

じつは柵の入口のところに、図書館や動物園の入口にあるような十文字の回転する、ひとりづつしか一方方向に入れなくする仕掛があって、そこをとおりながら、ちらと頭をかすめたものがないわけではなかった。こんなことをしていいのかな? だが一生に一度のわがままだ、ゆるしてもらおう。綾子さんほどつよいひとはいないし、みんな達者でくらせるように路線はしいた。おばあちゃんたちにも十分以上のサービスをしたし…。

場面はいつのまにか天国行急行列車のなか。「升川さんごめんなさいね。わたし例のおっちょこちょいで、つい自分が死んでるってこと忘れて、呼んじゃったの」

「いいんですよ、吉沢さん。まえから一度のってみたいと思っていましたから」

「GDMのひとたち、けっこうやってるじゃないの。わたし心配で心配でたまらなかつたんだけど」

「そりゃー大丈夫ですよ。GDMは生徒の自発性をそだてるっていうことは、先生も自発的でなくちゃならないんですから。そういうひとたちの集団ですからね」

男の一生は、大木にとまってミーンミーンとなっているセミのようなものだ、ということ升川さんはこのんでたとえていた。女というものが大木であり、男は、升川さんみたいに大きい人でもセミのようにちいさいものだというのか、それとも何年間も幼虫として地下でくらし、たった一夏だけを成虫として生殖しおわれれば、それで死んでしまうことのはかなさ、そのどちらを升川さんがさしていたのか、こんがらかったまま彼は行ってしまった。

何年かまえ、六甲だかゴテンバだかわすれしたが、食堂でひとり朝食をたべている後姿がとても孤独だった。食事を両腕でできかかえるようにして、テーブル上のこのちいさな空間だけは自分の自由のものとして断じて守るという姿勢のようにおもえた。彼がキリスト教にはいったころだった。



笑 顔

片桐 よう子

あの時、升川さん、あなたはほんとうにそこにいらしたのですか。例えば、阪急電車の中で、“It means You!”の原稿を、私のたのみで短かくしていたとき。例えば、西荻のこけし屋で、初対面の人を室先生に引き合わせつつ、小高さんや私の京都のセミナーの準備の相談ののってくれていたとき。昨年11月の吉沢先生追悼の東京の月例会の時、デモをやり、司会をやり、事務の打合せをやり、会場の片づけをやり、次から次から挨拶に来る人たちに笑顔を返し、私にはあんな目まぐるしい会はなかったのだけれど、升川さんは事もなげに、毎日こんなのよ、と言われましたね。

その時、電車の中で原稿に手を入れているあなたの姿に、学校で、津波のように押しよせてくるさまざまな、勉強以外の事柄を片はしから処理していくあなたの姿が重なって見えました。升川さん、あなたは自分で自分を消したんですね。あなたの笑顔はすてきでしたが、なぜあなたは笑顔しかないのです？笑顔の中にあなた自身を消していたのではありませんか？ 分刻みのスケジュールをこなすには不平を言っている間はなかったのですね。あなたの笑顔にもう会えないからこそ、こんな立ち入ったことを言ってしまうのです。

升川さん、私たちはもっと不平を言うことにしますよ。あなたのように笑顔でひの胸のうちを察するなんてできませんからね。お互い自分の責任で自分の胸のうちをしゃべることにしますよ。みんながお互いにもっとそうしていれば、もう少しは、あなたも楽だったんじゃないかと思うからですし、GDMは、自分の立場で、教師も生徒も対等にものを言うことを教えていく方法ですもの。もっとしゃべって、そして、自分のやれることを精いっぱいやっていきますよ。

升川先生

唐木田 照代

升川先生は、GDMを守り育てていくための、実に多くのことを、私に残していったのださったと、今改めて思っています。

そのひとつは、身軽に動き、若手を支え育てることです。約15年前、ずっと以前からGDMで教えていた学校で、小学生に英語を教えることになり、私は、はじめてGDMに出会いました。数年後、学内のあちらこちらから、GDMに圧力がかかってきた時、吉沢、升川両先生はいつも身軽に、ニコニコ顔で、（今にして思うと、ずいぶん心配してくださって）私の学校を訪れ、授業をみてくださり、エライ先生達と話され、私を勇気づけてくださいました。ひとつの核を守ってくださったことが思い出されるのです。又、ごく最近では、Talkのしかたを教えていただきました。準備のしかた、ポイントのつくり方、聞いている人に興味を持ってもらう法etc. 昨年度の月例会でほんの30分間、話しをしました。もう、とっっても大変で、目の前がボーとしました。

その2は、常に新しい試みをし、より良いものを求め続ける心です。ACCの授業の前後に、ことばに関しての新しい発見や、きょう、はじめてやってみた導入のしかたのお話しを、どんなに多くうかがったことでしょうか。研究会でもセミナーでも、去年とちがうことを提案され、実践されていました。

何にもまして、その場にいる全員をまきこんで楽しくさせ、ひとつの共通の思いへと向かわせてしまわれた、あのきめ細かくて、大胆な、エネルギーとこころ配り!!

先生からいただいたものを、私もぜひ実践したいのです。そして、私よりあとからGDMに魅せられた人達に、少しでも伝えることができるようになりたいと心から思うのです。

友情ある説得

中郷安浩

「ぼくはねえ、中郷さんと伊達さんにぜひ GDM を実践させたいと思ってんだ。ねえ中郷さん、伊達さん、GDM やれよ」

「われわれは、発音、発音で、とうてい GDM の授業に出る時間の余裕がないし……」

「だからさ、早く発音担当できる若い人を育ててさ、お二人はその分、GDM にかかわる時間を多くすればいいじゃない。若者を早く育てろよ」

升川さんは、何年も前から、会うたびに伊達さんと私にこうけしかけるのだった。

その後、発音の担当に、村上さんと原田さんに加わっていただいて、少しは GDM に参加できるかに見えたが、なかなかそうはいかなかった。人数が増えた分だけ、密度が濃くなって、これまで、一人一回しか見られなかったのを、二回見よう、いや、できたらもっとという風になっていったためである。結局忙しさは少しも軽減しなかった。

GDM の会では、English through Pictures を教えることはしなかったが、それでも門前の小僧よろしく、私は、非常勤の短大で何年間か GDM の授業をし、本務校では、「英語科教育法」の授業で、GDM をひそかに練習し続けていた。

1982 年度西日本支部の公開講演会では、体験授業として、アイルランド語を担当させられるはめになった。月例会での予行演習をくり返して、当日終了後、升川さんから「ユズルさんから聞いたけど、すごくよかったそうじゃない」と言われた時は、なるほど、実際にやってみなければわからないものだと実感し、こちらが体験学習をさせていただいたような気持ちだった。

升川さんの説得に応えられたのは、この時が最初で最後となった。突然の訃報を受けた時、私には決意が生まれた。It means ME. ののだと。

また逢う日まで

岩宮節子

それは何年前の六甲セミナー、外国語 through GDM」のあるクラスでの出来事でした。黒板の前に立ったのは、セミナー経験は浅いらしい白い名札の Native speaker の先生でした。美事に連なる音と音、独自のイントネーション、一所懸命の仕草。生徒の私達も瞳を凝らし耳を澄まし、頭もフル回転で授業が展開されて行きました。が、わからないのです。音が聞きとれないのです。先生も生徒も一瞬途方にくれ、何か悲しい気持ちになりかけていました。その時です。あのいつもの笑顔と共に、升川先生が出ていらしたのは。先生はにこにここと私達の前に立たれ、すぐ様大きな声と明快な動作で授業を始められました。途端にクラスは活気づき、皆一斉に発言し出したのです。実に良くわかるのです。音も意味も。先生のちょっとしたリードで、ずっと頭に入って来る、それは本当にワクワクする体験でした。ひとしきり授業をされた後、先生は日本語で「僕はここまでしか出来ないから」と言われ、又 Native speaker の先生にクラスを返され、すいと後の席にもどられたのでした。不思議なことに、その後の授業はスラスラ運び、私達生徒は先刻あれ程呻吟した発音も動作の意味も、今度は良く理解出来るようになっていたのです。

日本人で英語を教えているということが、時々やけに重く辛く感じられる時、私はこの場面を思い出します。思い出の中の升川先生はいつも鮮やかに頼もしく、感動的です。あんな風に存在感のある教師（せんせい）にお目にかかれ、直接教えを受け、そのお人柄に触れさせていただけたことを、本当に嬉しく光榮に思っています。1月21日の夜、「じゃ又明日」と受話器の向うで言われたのが、最後となりました。「明日」がいつか来た時、色々と先生に御報告出来るよう、GDM の勉強を続けていたいと願っています。平安

升川先生と二つの宝物

迫田久美子

私の家には、升川先生から送(贈)られた宝物が二つあります。一つは、今から10年前、初めて御殿場セミナーに参加し、ひたすら卒論の為に…と、升川先生に色々な質問をしたのがきっかけで「自分が書いている本の一部が役に立つかもしれない…」と送って下さった手書きの原稿のコピーです。原稿用紙にはところどころに書き加えがあったり、消去する線があったりで、何度も内容を吟味されている様でした。並べられた文字のひとつひとつから、先生の笑顔と同じ暖かさが伝わってくる様で、当時の私は涙が出る程感激しました。そして、その原稿は二年後に出版された「言語理論の生かし方」の一部だったのです。

もう一つの宝物は、一枚の葉書きです。

「御長女御誕生のニュース楽しく拝見しました。…何もお祝できないので言葉でお祝を：自分の二人の子の経験から。1.第1子を完全にしようとしてイジリまわさない事。親が神経質になったり、かわいがって過保護にならぬこと。2.言葉を覚える直前頃から、母親が自然な言葉で絵本を十分にくり返し読んでやる事。…以上完全主義にならぬよううまくね」何かとても素晴らしい出産祝が届けられた様で、早速アドヴァイスを忘れない様、子供のアルバムに納めました。この二つの宝物は今では升川先生の思い出の存在となってしまいました。先生の本の中で、「英語教育は…教師を必要とする『わざ』(art)である。…」

『言葉を勉強する事はこんなに楽しいんだよ』と楽しんでみせてやる事が最も教育的な事なのではないだろうか。…」とありました。喜びあふれんばかりの表情と身体ごとの素晴らしい先生のデモの意味と言葉…それは三つめの宝物。私達に残されたこと…それは一人一人が核となってGDMを通して言葉を勉強する楽しさを伝える事だと思うのです。「頑張りんさいよお！」と 升川先生の広島弁が聞こえる様です。

夢 問 答

山田初裕

(夢の中で升川さんに会い、次のような話になりました)

Y：大分疲れていたんですね。

M：いろいろ仕事が重なってしまって……

特に文部省から委託された仕事が一番しんどかった。9月のサバティカルまでに仕上げなければと思って、無理したから。

Y：升川さんの性格からすれば、頼まれて“いや”とは言えないのだろうか。

M：いろいろがった仕事をする事で、気分転換になると思っていたんだ。地方講演、地方の大学の講義など……いろんな人に会って話しができて、珍しいものが食べられたり、それにGDMの宣伝にもなるから。

Y：気分転換は大切だけど、それがたゞ気をまぎらわせるだけで、疲労の回復にならなかったんですね。少しノンビリする時間があったらよかったのに……

M：……

Y：升川さんにはいろいろ教えてもらって感謝しています。GDMについては勿論、英語学の最新の知識、英語教育界の情報など……でも一番は人間的魅力です。たえず周囲の人に気をつけて、みんなを楽しませてくれたし……

M：ところで、学校現場ではGDMがやりにくい状況がだんだんつくり上げられてきて大変だと思う。ガンバって欲しい。

Y：升川さんが自分を燃え尽きさしてしまうほど、自分の仕事に打ち込んだことはとてもすばらしいことだと思う。It means You. のモデルを残してくれたのだから。でも私は等身大で生きたい。努力はするけどガンバルのはやめたいと思う。“ガンバル”のは無理することだし、永続きしない。1人1人が自分の出来る範囲内で、この精神を生かしていきたい。私たちの仕事をみて下さい。

いつまでも現役で!!

昆布孝子

どうしてGDMを続けるの？ 毎回準備にあんなに苦しむのに。よく自問します。でも答えは、こんな所にあるのかもしれませんが。授業の度に、新しい発見、経験が出来ます。昨年のclassと今年のclassとでは、小学生と大人では、それぞれ、全く違ったものを教えてくれます。いつも柔軟な頭で、生徒に向かえば、「教師とは、～すべし。～あるべき」型の私でも、一方通行の授業ではない、何か良い関係が、生徒との間に存在しているのを感じられます。特にGDMのclassでは。こんな事があるから、やめられないのでしょうか。

私の恩師は、よく「教師は、現場を離れ、授業をしなくなったら、駄目だ」と言われていましたが、吉沢先生、升川先生をはじめ、GDMの先生方は、実践家で、真の教師です。

何歳になっても、いつも現場で、実践し、身をもって、私達に、GDMを教え、伝えて来られたし、伝えて来ている。

知識は、本を読んで、又講義を聞いて、得て来た私は、GDMについては、先生方の授業から、体、手足、全身を使い、皮膚を通して、勉強をして来ました。

確かに、GDMを知るのに、EPやTHB等の本がありますが、教師そのものが、最大の手本、教材ではないでしょうか。その為、私達教師は、一層自分を鍛えねばならない。

で、最大の手本、教材である、吉沢先生、升川先生が、あの様に早く、私達の目の前から、なくなれると、私など、本当に困るのです。直接習うことが出来た私は、倖せでしたが、全く糸が切れた風になってしまった思いです。

先生方にお願ひがあります。くれぐれも、お身体をいたわり、現役で実践して、「迷える小羊」を、つくらないで下さい。

最後に升川先生のご冥福をお祈り申し上げます。

教育観にかかわる課題

吉沢郁生

大学での英語科教授法の時間に、升川先生の講義が何回かあった。升川先生は、英語の知識や教授方法の知識と共に、教育に対する基本的な考えをしっかりと持つことが大切であると言われた。GDMという教授法を選びとった私たちは、GDMの土台となっている教育観や言語観を自分のものとしているはずだが、その中味を今一度、私たち一人一人が吟味していく必要があると思う。

たとえば次に挙げるような事態になったらどうするか。それが私にとっての課題である。

一、GDMで英語を習った生徒が中学校に進んだら、英語の成績がとても良い。その親は「やはり英語をやらせておいたかいがあった」と喜んでいる。このことをGDMの実践者としての私はどう考えるのか。

二、GDMは学校英語ではなかなかできないhearingの力を育てられる。英語検定試験のhearing test対策としてわが校でGDMを採用したい、と校長から話をもちかけられた。これにどう答えるのか。

三、NHKのアナウンサーの話す言葉が最もすぐれた日本語であり、方言などは劣った日本語であるという規準で国語教科書が作られることになった。これにどう反応すべきか。

四、中学生全員が英語を学ぶのは非効率である。職業上英語を必要とする人たちは日本人全体のごく一部ののだから、その人たちだけが英語教育を受ければよいとの考えで、中学校の教科から英語(外国語)がなくなり、それらはすべて各種学校や専門学校にまかされることになった。このことにどう反応すべきか。

万が一こうした事態になった時の自分なりの考えを持つこと、その上で改めてGDMを見つめ直していきたいと思う。

GDMで教えるわけ

川上いと子

デモのあとのコメントとして、升川先生が特に次の3点についてよくおっしゃった様に思います。英語自身が正しいか、又イントネーションやピッチも含めてSITに適した正しい運用がなされていたかどうか、さらに生徒達とよく communication でできていたかどうか。この第3点については、他の教授法になくて、私が最もGDMにひかれ、GDMで教えたいと思った理由でもありました。

セミナー等でデモをする時、みんなあがってしまって、自分の teaching plan をなんとかこなす事に精一杯で、生徒達の発言や反応を無視してしまうことがあります。いつかの中級クラスで、いかにも手慣れたデモをした人がいました。なんのスキもない様ですが、何かちがうなあという気持ちがありました。その時のコメントで、「生徒は自分のことを言いたいのだから」とおっしゃって、御自分のクラスで小学生の生徒が、「I have 36……(頭の上で手を大きく広げたり閉じたりして) in my house.」と何度もくり返し、36匹もいる甲虫のことを自慢したくて一所懸命訴えようとしたという話を、たいへん嬉しそうになさいました。実際升川先生の生徒になると、「英語を習うんだ、ましてや「教え方

をぬすもう」などという気負いや下心はたちまちのうちにどこかに飛び去って、その日の話題にのめり込み、知らない間に英語で話していたという風でした。終わった後は、熱中して話したという満足感で一杯で、どんな手順で導入され、どの様にしてあんなに興奮させられたのか思い返そうとしてもなかなか思い出せないものでした。甲虫の話を大切になさっている先生を見ながら、生徒と話したいと思う気持ちが、こうした「興奮」の秘密であり、又GDMで苦勞して教えるわけかなと思いました。

先生御自身も、“Technique からの脱皮”という文の中で、「しらかの物を使って……を導入する」のではなくて我々自身が生徒と本当に communication をしたがる姿が自然に出て行かなければ、GDMも小手先の技術だけに終わってしまうだろう。”(1978年 News Bulletin)と書かれています。去年の Bulletin に書かれた「開拓の精神」、「教条主義になるまい」とあわせて、クラスに行く時、デモをする時、いつも忘れず最も大切にしたいと思っています。せっかくGDMにめぐりあえたのですから。

(2頁より) 同じようなことは, bitter, branch, bright, broken, direction, field, instrument, picture, point, price, rain smooth, weight, その他多くの語についても言えると思います。わたしは, E. P. を使って教えたことがないので, これらの語が, 一度出た後, もういちど E. P. のどこかに出ていて, metaphor としての用法もうまく導入されているのかもしれない。

E. P. (従って G. D. M.) と Basic English との関係, および E. P. と full English, Basic English と full English とのつなげ方は, 当分わたしの頭から離れそうもありません。

新たな出発

岡部幸枝

広島県の田舎から、大学を出たばかりの娘が独り、東京に出てきて、初めて会った先生がジョロ長い升川さんでした。同窓という事で、大学の教授に紹介されていたのです。

「東京というところは、何処へ行くにも金がかかるよ。千円位は、すぐ交通費に消えてしまう」という彼の言葉は、東京の広さを感じさせる言葉として、当時の私にとっての実感でした。

中学の英語教師として教え始めて、行きづまり、紹介されたのがGDMでした。それも升川さんから。それ以来、関西に行っては片桐さんを囲む人達、東京に戻っては、Basicの会で室先生を囲む人達との御縁ができました。

GDMの実践から遠のいていても、片思いの恋人に寄せる思いにも似て、その人達との御縁が切り難く、欠かさずBasicに通っていません。升川さんには、英語関係の情報のみならず、言語関係の本の紹介をして頂き大学の授業を受けている気分で話を聞いていました。

升川先生と室先生のやりとりを楽しく拝聴し、また授業で消耗する物を補い質問する場

所として活用させてもらっています。いつの間にか、横になって話し始める升川さん、ICUのNative Speakerの話しぶりを物真似よろしく披露されたりして升川さんの苦労の一端を垣間見る時もありました。

升川さんの突然の死。私は田舎の父の手術に付添っていて、東京になく、三日後になって初めて知りました。「どうして、なぜなの？…もう一度だけ話したかった」という悔しさにいっぱいでした。特に今、彼の後を追うかのように、父まで行ってしまい、違った意味で、私の心の支えになっていた男性二人が去り、心に大きな穴が空いています。

室先生が、「升川さんは居ない。彼が居ないところから出発しよう」と言っ下さり、彼は居なくても、心の中に生きている。ここから始めなければという思いです。あんなに父を頼って生きていた病弱の母が、田舎で独りの生活を始めました。娘達が驚く程しゃかりして、私があぐさめられる程です。

私も母の姿に学び、残された者として、Basicの会を自分の物にしていきたいと思えます。

話題の本

『GDMを生きて — 吉沢美穂先生を偲ぶ —』 (GDM英語教授法研究会)

米山・高橋・佐野 『生き生きとした英語授業』 (大修館)

河上・Monkman 『英作文参考書の誤りを正す』 (大修館)

上田・北村他編著 『英語基本語彙辞典』 (中教出版)

田中克彦 『ことばと国家』 (岩波新書)

若林・隈部編著 『亡国への学校英語』 (英潮社)

大田 堯 『教育とは何かを問いつづけて』 (岩波新書)

生江有二 『つっぱりトミーの死』 (中公新書)

升川先生への手紙

GDM女子大グループ 浅見操子

升川先生。先生が“It means YOU.”をBulletinにのせられた時、私は「そうだ。そうだ」とうなづきながらも、サラリと読んでしまっていた様です。

去年の夏頃からの「女子大グループで子供達を教えよう」という動きは、升川先生が熱心に進めて下さっていて、腰の重い私達もやっと立ち上り、二月には説明会を開く予定になっていましたね。「説明会では、だれかがデモをやって、ボクが説明するからね」といわれて、その日どりをご相談しようという日の朝、あの訃報を受けとったのです。「アーッ」と声をあげ、全身の力がぬげるほどのショックでした。

自分達の手でクラスを作ろうという意気込みも、実は先生がいらして、ほめて下さったり、注意して下さるのを期待していたからにちがいがなかったのです。今更ながら、先生にたよりきっていた我々がはづかしく思われました。

「ICUの学生をここによこすからね」と私達がドキドキする様な事をおっしゃった先生。四月八日から、十人（男八人・女二人）の5年生達を相手に、トップバッターをひきつけた古川さんと私は、汗だくになって教え

ています。（イヤ、教わっているのかも知れませんが。）

“here”, “there”の何とむづかしい事ヨ。“ヒャー”。と口に出してみても、自分の音にビックリしている子供達。今までバラバラだった単語が並んであらわれて、最後には•までつけないといけないし。私達が先生の韓国語の体験授業でうけた、あの恐怖と不安を、今子供達は味わっています。

毎回見学して下さる方もいます。きっと、先生も吉沢先生と、ハラハラしながら見て下さるのではないのでしょうか。うまくない時は、吉沢先生の「ダメジャンナイ！」よく出来た時は、升川先生の「ヨカッタデスネ」

（これはまだきこえて来ませんが）が、きこえてくる様です。

今、女子大グループのそれぞれが積極的にGDMの実践にとりこんでいます。だれにたよる事もなく、大きな核になればらすばらしいですね。

“It means YOU.!”先生の大きな手が、私達を指さしている様に思えます。

吉沢先生によりしくお伝え下さい。

GDM女子大グループ一同

4月22日

編集係より

とにかく升川さんぬきに紙面をつくれなと思ひご覧のとおりになりました。お忙しいところ原稿を快くお寄せ下さった皆さん、有難うございました。四月初めに箕田さんは眼の怪我のため手術をしました。早く回復して下さい。

新聞などをみていると戦争、核武器、

非行教育問題等々、暗い気持ちになることばかり。GDMを知った今、どう教育に関わるか責任を問われていると思います。また中学校英語教育が危機にさらされています。GDMのできることを模索したいと思います。BulletinやNews•letterなどがそうした一助になるといいのではないのでしょうか。

(安西 聖雄)